



「3つの合言葉」元氣・学び・会話

町の子供は町で育てる 滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

子どもを立派な原始人に育てましょう！

26
64
14
成田奈緒子、眠ることで症状が改善されたAくん、
<https://kyoiku.sho.jp/>

Aくんは小さいときから周りの人とうまくいかず、いろいろなトラブルを起こしていました。お母さんの話によると、5歳ぐらいのときはADHD（注意欠陥・多動性障害）の特性が目立ち、手のかかるお子さんだったそうです。私が出会ったのは小学5年生のときですが、このときは、学力は高いけれども、他の子に比べて不安が高く、他の子が気にしないことも気にする面があり、ASD（自閉スペクトラム症）の特性にあてはまりました。しかし、私はその診断を本人には告げませんでした。その後も支援していく中で、Aくんは中学生になったころ、「自分は不安が高い。この不安は睡眠不足になると高まる」ことを自覚し、とにかく眠ることだけは絶対に崩さないように心掛けたのです。その結果、どんな症状が改善されていきました。高校生になると、同級生が午前2時まで勉強している生活も、Aくんだけは夜9時には寝る生活に崩さず、十分な睡眠を取るようにしたため、非常に落ち着いて、今は国立大学に通っています。Aくんは大学生になって初めて、私に診断名を聞きにきました。私が丁寧に説明すると、自分の考えていたことと同じだと納得していました（※個人情報保護のため、多くの事例をもとに創作した架空ケースです）。

宮前小、福田小、月の輪小を会場にした就学時健康診断が終わりました。今年も200名を超えるお子さんに受診していただきました。当日は、保護者を対象とした「家庭教育学級」を同時に開催しました。冒頭の挨拶で、学校に適応できず、頑張れないお子さんに共通することとして「朝起きない」「食べない」「夜寝ない」の3ないがあると申し上げ、いわゆる基本的生活習慣の確立についてご配慮いただきたいとお願いしました。これは、教師であれば誰でも知っている学校現場の経験則です。

集団行動ができない、友だちとのコミュニケーションがうまくいかない、集中力がない、ミスや忘れ物が多い、相手の話を聞いていない、授業中勝手に立ち歩く・・・このような発達障害と呼ばれる子どもが急増しています。文部科学省の調査によると2006年時点では、全国で約7千人でしたが、2021年には10万人を超えました。しかし、小児科医の成田奈緒子先生によれば、本当に発達障害と診断されるお子さんはそこまで多いわけではないそうです。

成田先生は、発達障害の可能性のある子どもがいたら、「眠る、起きる、食べる」がしっかりできているかどうかを見て欲しいと言います。「眠ることで症状が改善されたAくん」のようなお子さんも多いそうです。このことを成田先生は「脳の発達」から説明しています。

脳には「からだの脳」（脳幹：生命維持に必要な体の機能）「おりこうさんの脳」（大脳新皮質：知能知覚、言語機能、勉強やスポーツの上達に関わる）「こころの脳」（前頭葉：論理的思考や問題解決能力、想像力、判断力）の3つの脳があり、からだの脳→おりこうさんの脳→こころの脳の順番で育てることが最も重要だとしています。からだの脳がしっかり育ってはじめておりこうさんの脳、こころの脳が発達するというわけです。

「からだの脳」を発達させるためには「原始人のような子」をイメージするとよいそうです。具体的には「朝太陽が昇ったら活動を開始し、夜太陽が沈んだら眠る」といった「昼行性動物」ということです。子育てにとっても真面目で、「家族団らんの時間が大切」とばかりに、夜間勤務のお父さんの帰宅時間までお子さんを寝かさないでいるといった例もあるようですが、これでは、「夜行性動物」になってしまいます。成田先生は、「幼児には20時就寝、6時起床」「小学生には21時就寝、6時起床」を推奨しています。「寝る子は育つ」という古諺がありますが、「筋力がちゃんとあって、危険から身を守るぐらいの運動神経がある。夜になったら、コテツと寝て、朝になったらパカッと起きて、いつもニコニコ元気いっぱい」そんな立派な原始人を育てませんか。

「息子との時間」 川上須美江

息子との時間 川上須美江（茨城県）（73）

まもなくくる八月十九日は息子の命日です。小五のとき、思ってもみなかった骨髄性白血病にかかり、小六でこの世を去りました。今となっては息子のことを語る気持ちで、思い出を少しづつひもとくことができるようになりました。一年一カ月、病室で過ごした時間、病気から逃げず、一日一日を受け入れ、元気になりたい一心で頑張っている様子を見せてくれたことで、私の心は救われました。「今日、先生から面白いことを聞いたよ」とか、看護師さんと遊んだことなどを目を輝かせて話してくれました。先生や看護師の皆様からの愛をたくさんいただき支えていただいたことで、頑張る力になっていきました。「今度生まれ変わったら健康に生まれたい」とつぶやいたこと。看護師の方に「お母さんは寝ているので足音を立てないで入ってきてね」と話している声を聞き胸が張り裂けるような思いでした。また、「先生や看護師さんにお礼をしてね。きつとだよ」と感謝のつぶやきでした。病の進行から痛みの辛さが続き、「痛み止めを打ってもらおうか？」と言うと、「治らなくなると嫌だから頑張る」と言ったこともあり、十二歳の自分への厳しさも示しました。人生には腕いても、どうしようもなく起こりえることがあることを感じました。

暑さの中で、農業の辛さを感じることがあります。そんなとき、手の震えの中、プラモデルを組み立てて遊んだ姿を思い出します。その姿を浮かべ私も頑張れます。息子と過ごした時間を通して、感謝の気持ちと頑張りの気持ちを教わったような思いです。

先生方や看護師の皆様への感謝の気持ちと共に、短い十二年でしたが、息子と一緒に過ごせた幸せを感じています。これからも、この幸せは私の心で宝物として生き続けたいと思います。

新・出せなかつた手紙 月刊 私のまいにち 第七七八号 2024年11月号より

「滑川町の城館跡」 part6

水房館跡 中世（詳細時期不明）

水房館は、館についての史料がなく、詳細は不明ですが3段の平場が築成されていると見られ、その2段目には館が廃絶した跡に作られたと思われる13基の塚があり、館は中世の荘園領主・地頭などの館であったと思われませんがよく分かりません。



水房館跡東側からの遠景

館のある場所の小字は小山ノ台（おやまのだい）で『宮前村郷土誌』では畠山重忠が北条氏によって滅ぼされた後北条政子により遺領が分配され、この地が小山朝政（下野国・栃木県小山市に本領がある）に与えられたため「オヤマ」という地名ができたといわれます。

しかし、本領からも離れており、そのことに関する他の資料もなく疑問が残ります。また、領主の直轄領である「御山」を表すとも考えられ、滑川村史では『郡村誌』に山の別名が布知江山となっており、これは藤井山のことで「藤井」という領主または荘園の地頭がいたのではともされています。